研究

県南の神社について

賛助会員　高原三郎

貴重な紙面を拙稿の為に割愛して頂き感謝にたえない。先に佐伯史談第七十八号に発表した「宮尾神社について」と併せ、地域関係者の御指導をたまわれば幸甚である。

（第一表）　大分県の神社数

	大分県	南部（佐伯市含む）	北郡
A. 系統別祭神数（筆者統計）	九、六九一	六六二	五四二
B. 神社明細帳（明治三十三年）による神社数	四、六九〇	三五二	二九五
C. 神社台帳（昭和三八年）による独立神社数	二、〇一二	二二三	一五三
D. 残存率（CをBで除したもの）	四三%	六三%	五二%

大分県の神社はAから推して、江戸時代末から明治初年頃には、恐らく一万社以上はあったであろうと思われる。それが小社の統合、合祀が何度も指導され実行されて、明治二十三年には五千を割った。その後も引つづき統合が行われたが、特に第二次大戦に敗れてからマッカーサー指令により国家神道は追放され、宗教法人制度に切替えられて、前掲Cの如く約二千社となっている。

今日の社会情勢や世道人心の傾向から考えると、新な企業神社創設を除き、今後も独立神社数は減少するものと思われる。

註1、Aの系統別祭神数は、江戸末期から明治初年にかけての神社数を推定するために筆者が行った統計で、その数え方は次の様である。佐伯市鶴望宮白潟ノもと県社若宮八幡の祭神は（1、八幡大神、2、3、4、若竜公三柱、5、6、保食神二柱）に、摂末社として山王社（7、猿田彦命）、稲荷社（8、宇迦御魂命）、恵比須社（9、事代主命）である。享保年間佐伯藩主が創設した時は1、を祭ったが、その後合祀、統合の上メ祭神が増したものである。もとに復元したとして系統別祭神は9と数えた。仮に八幡大神が応神天皇、神功皇后等幾柱あってもこの場合は1、と数える。

註2、Bはもと県庁の社寺兵事課が所管したもので、最も詳細確実であるが、その資料は現在は県立図書館蔵となっている。

註3、Cは現在大分県神社庁が所管しているものである。

註4、南部とあるは佐伯市及び南海部八ヶ村全域の合計、北郡とあるはもとの川添村、大在村、坂の市町、四浜市、津久見市と佐賀関町の合計である。以下すべてこれに倣う。

（第二表）　系統別祭神（その一　南海部郡）

順	神社系統	祭神	神社数
1.	天満系	菅公	一八四
2.	稲荷系	保食神、稲倉魂神	六〇
3.	熊野系	事解男命等	四一
3.	秋葉愛宕系	迦具土神	四一
5.	山ノ神系	大山祇神	三九
6.	恵比須系	事代主命	二八
7.	金比羅系	大物主命等	一九
8.	八幡系	応神天皇等	一八
8.	宮尾系	佐伯惟治霊	一八
10.	天ノ神系	天保日命	一七
11.	出雲系	大国主命	一四
12.	海　系	綿津見神	一三
13.	伊勢系	天照大神等	一二
14.	興玉系	猿田彦神	一一
15.	水ノ神系	罔象女神	一〇
16.	年ノ神系	大歳神等	九
16.	八坂（祇園）系	素戔嗚尊	九
18.	住吉系	三筒男命	八

〈第三表〉系統別祭神（その二 北海部郡、県全体）

北海部郡		大分県	
系統	神社数	系統	神社数
1 天満系	一七七	1 天満系	一、七〇三
2 稲荷系	四一	2 稲荷系	九二八
3 山ノ神系	三八	3 山ノ神系	八一九
4 八幡系	二九	4 八幡系	五七九
5 火ノ神系	二四	5 伊勢系	五〇三
6 金刀比羅系	二二	6 金刀比羅系	四八三
7 熊野系	一七	7 貴船系	四六六
8 恵比須系	一五	8 祇園系	三四五
9 年ノ神系	一四	9 火ノ神系	三一七
10 出雲系	一一	10 年ノ神系	二八三
11 伊勢系	一〇	11 熊野系	二四四
12 厳島系	九	12 厳島系	一九〇
13 試験系	八	13 恵比須系	一八七
13 多賀系	八	13 興玉系	一八〇
15 土ノ神系	六	15 出雲系	一五〇
15 雲見系	六	15 高良系	一二一
15 日吉系	六	15 春日系	一一八
18 白山系	五	18 水ノ神系	一一五
18 興玉系	五	18 海系	一一二
20 海系	四	20 小一郎系	一〇八
18 厳島系	三	18 厳島系	八
20 春日系	天見根命等		七

（注）頭書の南は南郡、北は北郡（いずれも前頁下段の注4参照）

菅公を祀る天満系が実に二八%という驚くべき数を示している。文運を祈るのか、怨霊鎮魂の為か、何れにしても大変なものである。第二表で見ると南郡の神社には6、7、18、18と、海上の関係の神がかなりあるが、実はもっと多いと期待していた。8の富尾社はこの地域と宮崎県の六社のみで地域特有のもの、又出雲国譲り交渉の第一の使者天ノ穂日命十七社の存在は、稍奇異の感を覚えるものである。

県南地方の水（雨）の神の社の分布

南郡にこの種の神社が僅かに十四社と非常に少ないのはなぜだろうか？ 宇佐市郡が二百社、下毛郡百十七社、西国東郡七十五社、大野郡六十四社に対し、北郡十一社、玖珠郡四社と共に極度に稀少である。この地方が五風十雨に恵まれて旱害が特に少ないのか、或は水田耕作の比重が軽かったのであろうか。

以下その系列と分布を記して見る。（○は主神、△は合祀神、（　）は境内末社）

その一 貴船神社系（龍（オカミ）神を祭る）Aタカオカミノカミは祈雨の神で、オカミとは龍蛇神という。

南 1. 貴船社（○A） 佐伯市鶴望字坂山の星宮神社に合祀される。

〃 2. 貴船神社（○A） 佐伯市護江浦字宮野内浦の奥（山）神社に合祀される。

〃 3. 貴船神社（貴船大神） 佐伯市下堅田字浜谷、現在この地域唯一の独立貴船神社である。

北 1. 貴船社（○A） 臼杵市野田字木船↓明治十八年即霊畑の御霊神社の K になる。（もと臼杵五社の一だが大友宗麟に焼かれてから衰えた。）

〃 2. 蘇河内神社（△貴船神） 臼杵市下北津留蘇河内字野添（字恵長畑より明治十七年に合祀）

〃 3 貴船社（○A） 臼杵市大泊字家上↓明治十一年に字宮田の御霊神社に合祀

昭和二十八年の神社台帳によると、北郡には独立の貴船社はない。

（注） 頭書の南は南郡、北は北郡（いずれも前頁下段の注4参照）

その二　水の神系（田象女（ミズハノメ）神を祭る）　34神

南1. 水神社　弥生町切畑地区細田一ノ口、同村天満社のK。
〃2. 水神社　弥生町切畑地区平井真弓鶴、同村一ノ宮神社に合祀。
〃3. 水神社　弥生町切畑地区江良字左馬ヶ嶽、同村祇園の八坂神社に合祀。
〃4. 星宮神社　佐伯市鶴望地区坂山（明治十一年合祀）
〃5. 塩井社　守目町重岡地区塩見園字打越（明治九年合祀）
〃6. 水神社　右のK。
〃7. 水神社　守目町重岡地区大平字岡田ノ上鵠野尾社のK。
〃8. 水神社　守目町重岡地区河内字松ノ原、天満社のK。
〃9. 龍王社　守目町小野市地区夷
〃10. 地神社　守目町重岡地区字四の鼻
北2.1. 水神社（二社）　津久見市徳浦字権現山の徳浦神社のK。
〃3. 水神社　津久見市津久見浦字宮ノ前のもと景社赤八幡のK。

その三　水分（みくまり）系（天・国水分神）　水源の神

北1. 水分神社　大分市坂ノ市久土字竜王宇→明治十八年字竜王の天満社へ合祀、昭和二十六年久土神社へ合祀。
北2. 水分社　臼杵市望月字臺→明治十八年字太郎畑の五柱神社へ合祀。
北3. 水分社　津久見市徳浦字権現山の徳浦神社に明治十八年合祀。

その四　枝（ハライド）神系（瀬織津姫神）　早川の瀬にあって、この世の罪穢を海原に流し送る神である。

南1. 此花咲耶神社　佐伯市下堅田地区石打（明治十年合祀）
北1. 祓戸四神の宮（○早秋津姫命○瀬織津姫命）佐賀関町早吸日女神社のK。

その五　養蚕功労者を祀る神社

北1. 后殿合祀之墳（后は大聖禹王、殿は五穀の神）臼杵市南津留字松ヶ鼻

その六　その他

①海部で一番数の多い天満社はもともと雷神で、水（雨）の神の社の少いこの地方では、雨乞い祈願は天満社で行っていたようである。
②阿蘇神社（健磐龍命等）系
早大の松田寿男教授の「丹生の研究」によると、阿蘇山の神であり祀後の国の地主神である健磐（磐）龍は高岩龍で、黄船系の主神高靈神の変化したものという。
丹生（一）の宮ー大分市川添火振の阿蘇入社
丹生（二）の宮ー大分市坂の市原（もと丹生村）丹生神社
丹生（三）の宮ー大分市坂の市屋山の丹生社

（おわり）

探訪記

岸河内から大越へ

―堅田の古戦場をめぐるの記―

羽柴　弘

①三月十三日　市民あるこう会を案内して、西野から古戦場千人塚へ。
②四月一日　史談会有志八人で岸河内から大越へ。（車で、同行五人）
③四月　日　商岡の陸上自衛隊将校宗像氏を案内して、堅田古戦場巡り
④四月廿三日　熊沢の富尾神社参拝（史談会員七、八名同行）

古の通り最近四回引つづきに堅田谷を歩いた。その中で最も収穫多く感じた②の探訪を記して見よう。